

会議の名称	第24回柏原市子ども・子育て会議
会議の開催日時	令和5年11月28日(火)13時30分～15時30分
会議の開催場所	柏原市役所 4階大会議室
事務局(担当課)	福祉こども部 子育て支援課 こども施設課
出席委員	谷向みつえ、小松孝至、楠敏幸、田中昌之、藤井兼昌、西村龍夫、西育代、進藤永子(敬称略)
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 開会のあいさつ 3. 委員及び事務局の紹介 4. 会長及び副会長の選任 5. 会長あいさつ 6. 案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 柏原市子ども・子育て支援事業計画(第3期)策定のためのアンケート調査項目について (2) その他 7. 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 柏原市子ども・子育て会議委員名簿 ・資料2 子育てに関するアンケート(就学前児童がいる世帯対象) ・資料3 子育てに関するアンケート(小学生児童がいる世帯対象) ・資料4 利用定員の変更について
審議の内容等	以下の通り

事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、第24回柏原市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、ご多忙のところ、ご出席賜り誠にありがとうございます。</p> <p>まず、開会にあたりまして、福祉こども部長の森口からご挨拶申し上げます。</p>
部長	<p>こんにちは。福祉こども部の森口と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日はご多用の中、第24回柏原市子ども・子育て会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。さて、国の方におきましては、今年の4月にこども家庭庁が発足し、現在、こども基本法の基本理念にのっとった子ども施策を総合的に進めるために、こども大綱の策定を進めております。</p> <p>本市といたしましても、こういった国の動向を踏まえ、未来を担う子どもたちの健やかな成長に繋がるよう、子育て政策の充実に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。</p> <p>さて、本日の主な議題は次年度に策定いたします、第3期柏原市子ども・子育て支援事業計画の基礎資料となるアンケート資料の内容についてでございます。資料も多く、委員の皆様には大変ご負担をおかけしますが、忌憚のないご意見を頂戴したいと考えておりますので、最後までよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>森口部長ありがとうございました。部長におかれましては、このあと公務がございますので、ここで退席となります。</p>
部長	<p>よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>続きまして、今回の会議は、委員改選後最初の会議ですので、委員の皆様のご紹介をさせていただこうかと思います。</p> <p>お名前をお呼びいたしましたら、自席にてご起立をお願いいたします。</p> <p>大阪教育大学教授、小松孝至委員。</p>
小松委員	<p>小松です。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>柏原市労働組合協議会代表、楠敏幸委員。</p>
楠委員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>柏原市市立幼稚園代表、田中昌之委員。</p>
田中委員	<p>田中です。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>柏原市民間保育園協議会代表、藤井謙昌委員。</p>

藤井委員	はい。引き続きよろしくお願いいたします。
事務局	柏原市医師会代表、西村龍夫委員。
西村委員	はい、西村です。よろしくお願いいたします。
事務局	柏原市民生・児童委員協議会代表、西育代委員。
西委員	西です。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	市民代表、進藤永子委員。
進藤委員	よろしくお願いいたします。
事務局	<p>本日、柏原市放課後児童会代表、石本吉紀委員は欠席の旨お伺いしております。また、関西福祉科学大学教授、谷向みつえ委員は講義のため、遅れて出席される旨お伺いしております。</p> <p>小松委員も16時頃から抗議があるとお伺いしておりますので、もし予定より会議が延長するようでしたら、途中で抜けていただくということで、よろしくお願いいたします。</p> <p>続いて、事務局の紹介に移ります。自席にて順番に所属と名前をお願いいたします。</p>
事務局	皆さん、こんにちは。福祉こども部次長兼子育て支援課長の山本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	こども施設課長の石橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	子育て支援課課長補佐の木原です。よろしくお願いいたします。
事務局	こども施設課参事、村井です。よろしくお願いいたします。
事務局	こども施設課主幹、秋田です。よろしくお願いいたします。
事務局	<p>それから、本日は計画策定のコンサルティング業務をお願いしております、株式会社 HRC コンサルティングから、東野様と木村様にお越しいただいております。</p> <p>それから、本日、司会を務めさせていただきます、私、こども施設課参事兼課長補佐の阪口と申します。よろしくお願いいたします。以上が本日の事務局メンバーとなります。</p> <p>続きまして、本日の会議の成立をご報告いたします。委員数9名のうち、本日ご出席いただいております委員は、欠席の石本委員と遅れて来られます谷向委員を除きましても、7名となります。よって柏原市子ども・子育て会議条例第4条第2項の規定により過半数以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>続いて、配付資料の確認をさせていただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本日の会議の次第 ② 資料1 柏原市子ども・子育て会議委員名簿

	<p>③ 資料2 子育てに関するアンケート(就学前児童がいる世帯対象)</p> <p>④ 資料3 子育てに関するアンケート(小学生児童がいる世帯対象)</p> <p>それから、本日、会議机の上に置かせていただいた資料が2つございます。1つが「利用定員の変更について」という 1 枚ものの資料でございます。もう1つが、谷向会員から事前にメールで、本日の議案についてお聞きしたい旨をお伺いしておりました。谷向委員の意見をまとめた資料をお配りさせていただいております。</p> <p>資料は以上になります。お手元、お揃いになってますでしょうか。</p> <p>そうしましたら、次に会長および副会長の選任に移りたいと思います。柏原市子ども・子育て会議条例第3条第2項の規定により、会長および副会長は互選により定めることとなっております。ここで、事務局から提案なのですが、前回会長、副会長を務めていただきましたお 2 人に続けて委員として引き受けていただいておりますので、今期におきましても、お二人に会長、副会長お願いできればと思っておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>谷向委員につきましては、本日、遅れて参加するとのことだったので、この提案を事務局からさせていただく旨はお伝えしております。谷向委員からも「皆様のほうから承諾をいただけるのであれば、引き受けることは了承します」というお返事はいただいております。皆様、いかがでしょうか。</p>
小松委員	異議ありません。
事務局	<p>ありがとうございます。そうしましたら、異議なしということで、引き続き、2年間の任期の間、よろしく願いいたします。</p> <p>ここからは、柏原市子ども・子育て会議条例第4条第1項の規定により、会長に議長をお願いいたしますところ、本日おられませんので、小松副会長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
副会長	<p>小松でございます。引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、今日は会長に選任されました、谷向委員がおられませんので、ここからは私のほうで議事を務めさせていただこうと思います。</p> <p>今日は、調査の内容とかが、資料を見ますと載ってありまして、これを通して、また市民の皆様に関心を持っていただくことが、考えを聞かせていただくということが大事になるかと思っておりますので、ぜひ、皆様方のご意見をよろしく願いいたします。</p>

	<p>ということで、まず、傍聴人の確認が必要でしょうか。</p>
事務局	<p>おられません。</p>
副会長	<p>はい。今日は傍聴については、申し出がないということです。 それでは、基本的には議事に沿って、進めていくということになると 思いますけれども、案件1からよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
副会長	<p>案件1「柏原市子ども・子育て支援事業計画(第3期)策定のための アンケート調査について」ということです。 これは事務局のほうからお願いしてよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。それでは、私のほうから説明させていただきます。着座にて失 礼いたします。</p> <p>資料ですが、先ほどのアンケート、「就学前児童がいる世帯対象」 「小学生児童がいる世帯対象」こちらのほうを、お手元にご用意いた だけますでしょうか。</p> <p>まず、柏原市次世代育成支援に関するニーズ等調査についてご説 明させていただきます。「子ども・子育て支援事業計画」は、子ども・子 育て支援法第61条の「市町村は、基本指針に即して、5年を1期とす る教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保、 その他この法律に基づく業務の円滑な実施に関する計画を策定する ものとする。」という規定に基づき、策定する計画です。第2期計画が 令和元年度から令和6年度までとなっており、このたび第3期子ども・ 子育て支援事業計画を策定するために、まず、アンケート調査を実施 いたします。本日は、この調査項目につきまして、ご意見を頂戴いたし たいと思っております。</p> <p>調査票の配布なのですが、就学前児童がいる世帯1,020、小 学生以上がいる世帯1,020に配布することとしております。これは、第 2期計画策定時の調査を参考に回収率を54%、許容誤差5%、信頼 率99%として必要サンプルを求め、各歳児の対象を、170人に設定 し、それぞれの歳児が6学年ございますので、170×6学年でそれぞれ 1,020とさせていただいております。</p> <p>調査期間ですが、1月の初めに送付の方をさせていただいて、2月1 日までを投函期間といたします。以上が調査の概要でございます。</p> <p>続きまして、アンケートの設問についてご説明させていただきます。</p> <p>このアンケート調査については、国・府のひな型が示されておしま して、府においても、それに基づき集約を行うこととなりますので、大幅 な項目の変更はしない前提とさせていただきます。そのうえで、今回の</p>

調査票は5年前の前回調査時の設問をベースに、国・府のひな型に変更があったところを落とし込んで作成いたしました。

前回調査から変更した点を申し上げますと、両方の調査票の共通設問として、問3のお子さんの生年月日について問うところがございます。こちら前回調査では、全て西暦のみで書くようになっておりましたが、今回、回答者が記載しやすいよう、和暦を選択できるようにさせていただきました。

また、就学前児童の調査票の問10-1、小学生児童の調査票では問8-1になります。気軽に相談できる人や場所についての問いでございます。選択肢の中に「15. 携帯電話やネットの交流サイト」という選択肢があったのですが、こちらは携帯電話の交流サイトというものがイメージしにくいというところで、「インターネット等の交流サイト」と、言葉のほうを変えさせていただいております。

続いて、就学前児童の調査票の問28、小学生児童の調査票では問16になります。こちらは、府のひな形で調査内容が少し変更されております。前回の調査では、「冠婚葬祭、家族の病気など保護者の用事により、泊りがけで家族以外の誰かにみてもらわないといけないことがあったか、また、その際の対処方法、何泊したか」を聞く問でした。今回は「ショートステイを利用したいか、利用したい場合は、冠婚葬祭など、どのような目的なのかと何泊必要か」を記載する問になっております。

続きまして、新たに創設された設問となりますが、調査票の最後に自由筆記の問があるんですが、その直前の問になります。「お子さんが3人以上、または双子や三つ子のお子さんがある方」への問となっております。こちら、それぞれの子育ての負担を減らすために最も有効、それから2番目に有効な支援、サービスを回答するようになっております。こちら今回新たに追加されております。

それから、就学前児童の調査票の問29と問30になります。サービスの利用回数を聞いております。こちらのほう、1週間当たりの回数、または1か月当たりの回数を記載するようになっておりますが、1週間当たりの記載部分を削除し、1ヶ月当たりに何回程度利用するかを記載すれば足りるのではないかと考えております。特にご意見がなければ、月あたりの記載に一本化したいと考えております。こちらもご審議含めてよろしく申し上げます。

それから、最後になります、設問中の施設、サービスを含めた施設事業の一覧表をつけさせていただいております。こちら前回の調査時から、新たに市立の認定こども園であったり、子育て世代包括支援セ

	<p>ンターができたりしておりますので、現状に合わせて修正をさせていただいております。</p> <p>すいません。1点修正がございます。就学前児童の調査票の19ページをご覧ください。こちらに機関名、サービス名たくさん書かせていただいておりますが、まず上の「(1)機関など」の「③子育て支援センター」というところに「(ハローKIDS)」と書かれておりますが、こちらは現在ございませんので、削除のほうをお願いいたします。それから「(2)サービス」の一番下の「⑬市が発行する子育て情報誌」ですけれども、こちらに「(子育てほっと情報)」と記載させていただいておりますが、こちら、子育てほっと情報ではなく、柏原子育てガイドブックに変わっておりますので、こちらも修正よろしくをお願いいたします。</p> <p>修正含めて、事務局の説明は以上になります。</p>
副会長	はい、ありがとうございます。かなり、いろいろとご説明がありましたので、少し時間をとって委員の皆様に見ていただいて、ご検討いただこうかなと思いますが、よろしいですか。
事務局	はい。
副会長	すいません。しばらく、委員の皆様、資料の確認をお願いいたします。
田中委員	いいですか。
副会長	はい。お願いします。
田中委員	最後のほうに、子育てのガイドブックのことで説明がありましたけども、「休みの日には、親子でどこの公園遊びに行きますか」と親御さんに聞くんです。そうしたら、「文化センターとか遊びに行く」とか、「堅下駅の裏側の公園に行きます」とか、答えが返ってくるのですが、保護者の方にそれを聞いて、「このガイドブックにこんな公園がありますよ」と、「楽しいですよ」と。この回数のこと書いてありましたけども、そういう情報をみんなにPRして、もっと「柏原市に住みたいな」というように保護者に感じていただけたら、人口的には減ることなくやっていけるかなと思うんです。なので、ぜひとも公園のガイドブックが欲しいなと思います。以上です。
副会長	この調査では公園については聞いていますか。公園に遊びに行くとかという項目はありましたかね。
事務局	遊び場所の項目は少しあるのですが、公園に特化した項目は特になかったと思います。

副会長	遊び場としてそれは、名指しているということですかね。その情報の提供として、現状としてはどうかということについては、いかがですか。公園の情報というのは、保護者の方には伝わっていますか。
事務局	子育てガイドブックの中に行ける場所というところの欄はあるのですが、公園に特化した、「この地域にはこんな公園があります」とか、地図が入っていたりというところのイメージを仰っていただいていると思うんですが、そこまでのものはないので、今後参考にさせていただきたいと思います。
副会長	委員もよろしいですか。もう何かもうちょっと具体的なイメージとか、
田中委員	<p>ありがとうございます。市役所の前の大和川の芝生のところも、これ花火されましたよね。花火もいいと思うんですけども、我々、施設を持っている者としては、「どこかに遊びに行きたいな」とか、「雁多尾畑の上のところに施設があるよ」とか言われるんですけども、保護者に車で案内してもわからないだろうし、具体的なことを言えば、玉手山の公園もあります。柏原を代表する公園として思っておられるのなら、それならそれで仕方ないんですけども。何か、「あそこ行ってきたら楽しいよ」と言えるような公園を作り上げていただきたいなと思います。</p> <p>ちょっと横道にそれてしまうんですが、国分地区が非常に子どもの人口が減ってきてるように思うんですがね。国分は自然に恵まれているところなのに、「なんで人口減るの」と思ったので、その辺のことを市として、もう少し前向きに考えてもらえたらと思います。せっかく柏原市は自然に恵まれた山もあるし、いいところはあるのになと思いますし、勿体ないような気がしてますので、ご検討のほどよろしく願います。</p>
副会長	<p>ありがとうございます。私も市民ではございませんが、公園の一覧というのを、実は欲しいと思うときが結構ありますので、このアンケートに直接とか、他のアンケートに同封するとかだと、これを貰ってない方が行けませんので、そういうことについても併せて、ご検討をお願いできればと思います。</p> <p>内容というわけじゃないのですが、少しお伺いしてよろしいですか。</p> <p>今、結構、この手の調査はインターネットですることのほうが増えてきているんですね。私どもの学生の卒業論文とかであっても、調査の手法というのが、インターネットなんです。それはもちろん良い、悪いあるんですが、紙に書くよりはもしかしたら、答えやすいとかということもありうると思うんです。そのメディアというか、「インターネットの調査に</p>

	してはいけない」みたいなルールがあるんですかね。
事務局	特にはないんですが、従前からこの形でさせていただいたことと、前回の調査票をそのまま使わせていただいていた中で、府のひな形を落とし込む作業をさせていただいて、前回どおり進めていますが、そこはちょっと今後の課題というところです。
副会長	こういう設問の枝わかれをどう処理するかというのは、ちょっと難しいんですけども、工夫すればインターネットの方がもしかしたらお安い可能性もあるかなと思います。それに、いまどきの親御さんが果たして紙に書き込むのと、スマホで答えるのと、どちらが負担かというときは、もしかしたら後者のほうが楽かもしれませんので、そこはご検討いただいてもいいかなと思います。
西村委員	副会長に賛成ですね。これ要するに前の調査票を踏襲することで、すぐに作れたけど、でもネットに落とし込むのが大変なんですよね。作りにくいんですよ。でも1回やっておいたら、次回からそっちのほうがはるかに簡単ですよ。まあ今回は大変だけど、やったらいいんじゃないかなと思いますけど、はっきり言って回収も一瞬でしょう。コストもそんな全然違いますよ。税金使ってやって、人の手でやるほうがなんかなと思いますけどね。どうですか。解析もそのほうが簡単でしょう。
事務局	ネットでいくにしてはかなりボリュームがあるなどというので、それはむしろ紙のほうが答えやすいかなというところもあったんですね。相当画面ずっと見て、携帯で答えるとなると。細かいですし、選択がいろいろ飛んだりするので、一旦は検討したんですが、予算的な問題もありまして、紙ベースでいこうと考えていました。
進藤委員	これ、紙で回収率 50%も多分ないと思います。紙でこのアンケートを送られてきて、何の報酬もなしで送ろうとは私は思わないです。それだったらインターネットでやって「回答された方には、柏原の特産品がもらえます」とかそういう、郵送でやるお金のこと考えたら、それぐらいできるんだったら。
西村委員	いずれにせよ、郵送は必要なんだろうけど。QR コードを読み取って答えるんですよ。あるいは、はがきとかで。
進藤委員	これは回答しようと思う気にはならないです。紙できたとしても。
藤井委員	今、保育園とかでも国からとか、大学とかからアンケートがよくきます。バーコードで載せといてやる方法と、紙でやる方法を両方持っています。なぜかというところやっぱり、どちらか選べるようにしとかないけないということ、平等にということ、やっぱりできない人もおれば、どちらかのほうが都合がいいという人もおるだろうということ。

	<p>あくまでも回収率を増やす方法が一番だと思うんです。まず一番に、そのアンケートを答えないといけないのかどうかということを全面的に、義務なのか自由なのかということもはっきり記載しておかないと、私のほうでも、「ネットで役所のほうに情報を載せているのに、なんでまたそんな、いちいち答えないといけないんだ」というようなこともありますのでね。私はどちらかと言ったら、両方で行くべきかなと思います。</p>
副会長	<p>両方でくるというのがありますね。車を買ったときのアンケートなどは、どちらでも答えられるみたいなのはもらったことはあります。多分今は、民間ではそれが主流というか、どちらでもいけるというのがある程度出てきていると思います。私も5年前でしたら、時期尚早と言ったと思うんです。でもやっぱりコロナの中で調査関係は、一気にそちらに動いたというのが、大学で調査などしていても思いますので、それはぜひ、ご検討いただく必要があるかなと思います。</p>
藤井委員	<p>ぜひ、予算取りをしていただいたらいいんじゃないでしょうか。</p>
事務局	<p>市の中に、実際に全庁的にネットを使ったアンケートとか申し込みというのを進めているんですけども、そういう活用も試しています。先ほど課長も申しあげましたように、今回はかなりボリュームがあるのと、いろんなところに「これ答えたらこっち」とかという設問がありますので。</p> <p>ただ今回、これだけご意見いただいたので、その活用ができるかどうか試してみたいと思います。どうしてもシステムの機能的に無理な場合は、断念せざるを得ないのかなと思うのですが、まだ少し時間がございますので、試してみます。それで、できるようであれば、この調査票にどちらでも回答できるように、それはQRコードで読み取ることができるような形のものになりますので、一度、私のほうで責任を持って確認して、できるようであれば、またその旨をお伝えさせていただきたいと思います。</p>
副会長	<p>多分、ハードルはいくつもあると思うんですよ。というのは、紙だったらこの紙をもらった人しか答えられないんですけど、それにしてしまうと何回でも答えられてしまうとか。言ったら抽出の作業というのが、「無作為抽出でやりました」という前提が崩れてしまうので、その設問の枝わかれのところだけではなくて、そこが実は結構難しいというか。多分、国の方で「無作為抽出でやってください」ということで来てるんじゃないかと思いますので、ご意見をいただきます、だけだと、そこはクリアできないだろうと思います。なので、「この番号を入れてくださ</p>

	<p>い」みたいなものを郵送して、そこで突き合わせをしないと、重複とか不完全なものというのが大量に発生してしまうと思いますので、そのあたりの技術的なあれはいると思うのですが、ただ、さっきも申し上げましたけど、明らかに調査をするということが、どんどんそちらの方に向かっていきますので、それには対応していただく必要があるかなと思います。ありがとうございます。いかがでしょうか。</p>
西村委員	<p>前回、1020人に送って、54%って、割と回収率良かったんですね。でも600人ぐらいですよ。1学年が150人くらいですか。</p>
事務局	<p>170人です。</p>
西村委員	<p>170人ですか。ちなみにその数字はどうやって決められたのかなと思います、さっきも説明しておられたかと思うのですが、</p>
事務局	<p>まず、就学前のほうを例にとって説明させていただきます。令和5年8月末時点で、就学前児童数が2704人おりました。こちらの人数に対しまして、許容誤差、母体となる数字に対して、当然この人数全員に調査をすれば、誤差のない綺麗な数字が出ますが、当然抽出するので、本当の数字に対して、いくらか誤差が出る可能性が当然あります。</p> <p>許容される誤差を5%として、こちらは一般的な調査で使われている数字なので、こちらを採用させていただきました。この許容誤差5%プラス、何回か調査をさせていただいた中で、この5%の中に収まる確率が、信頼率ということで、今回99%で設定させていただいております。</p> <p>この数字を用いまして、2704人、この人数に対しまして、回収率が前回の調査をもとにしますと55%には届かなかったもので、一旦54%の回収率を想定させていただきました、これらの数字を用いて正しい統計の数字が取れるサンプル数を算出しますと、必要調査数が983となります。回収率54%で設定しておりますので、983の54%で、必要サンプル数が531になりました。</p> <p>この531を6学年で割ります。6で割ると、1学年あたりの数字が163.833という数字が出てきましたので、きりのいい数字で170とさせていただいて、$170 \times 6 = 1020$という調査数を出させていただきました。</p>
西村委員	<p>なるほど、難しいですね。そういう計算式があるんですね。でも、設問によって違うような気もしますけどね。</p>
事務局	<p>あるとは思いますが、一般的な数字をそういう形で採用させていただいております。</p>
西村委員	<p>なるほど、ありがとうございます。勉強になりました。</p>

副会長	多分、今の話は、99%の信頼区間の幅がプラスマイナス5%になるような設定なんだと思います。いろいろ、我々の業界の言葉で見ると。
西村委員	なるほど。
藤井委員	これは集まらなかったらもう一回するんですか。
事務局	いや、そこまでの予算は取っておりませんので。
藤井委員	ただ、そういうところもあるので、やっぱりやり方は十分検討していただいたほうがいいかなと思います。
西村委員	163を下回ると駄目なわけですね。
事務局	そうですね。数字としてはあまりよくないですね。
西村委員	でも学年によっては下回りますよね。
事務局	極端に回収率が落ちれば、そうなります。
西村委員	その場合は、もうそれで仕方がないということですか。
事務局	そうですね。もう1回やる予算と時間がどうしても、限られた中でやっていますので。
西村委員	だから、ネットだったらすぐにできますよね。読み込んで、ピッと送ったらいいんだから。
藤井委員	次からコスト掛かりませんもんね。
事務局	今回が3期計画なので、過去に1期、2期とやってるんですけども、どちらもある程度、50何%とか、52%、53%のときもありますけども、そのあたりで推移しておりますので、ギリギリいけるかなとは思っております。これも推測でしかないんですけど、
藤井委員	一番最初から何年目になるんですか。6年ですか、8年ですか。 一番最初に比べて、だいぶパソコンとか携帯とかも普及してますしね。時代も変わっていると思いますけどね。
西委員	このアンケートってずっと前からありますよね。私も書いたことあるんですけど、もうかなり大きい子どもですけども、なので、2回、3回とかじゃないですよ。
事務局	今回で3回目です。
西委員	そうですか。でも、こういった系統のアンケート、私の子どもの頃とかも送られてきて、アンケートを書いた覚えがありますね。何かわからずに、でも送り返さなくちゃいけないと思って一生懸命書いて、送ったことがありますね。
事務局	子ども子育て支援法の前の法律に基づいたもので、計画を作っていましたので。
西委員	その時ですかね。分厚いこういうアンケートが、三つ折りで送られて

	<p>きて、書いた覚えがあるので。 施策みたいな、やり方が変わったんですね。</p>
事務局	<p>そうですね。法が新しくできて、子ども子育て支援事業計画ということで、保育の形も制度が変わり、それに合わせてという形です。</p>
西村委員	<p>10年前に比べて、お母さんが忙しくなっていますよね。何個答えてくれるかですよね。10年前に比べたら暇な時間はなくなってますよ。大体の人は働いていますしね。</p>
楠委員	<p>今回が3回目というところで、前に2回目をやりましたと。今回の3回目のアンケートの変化点は、文言の変更だけだというところで、2回目のアンケートをしたことによって、5年間の期間で第2期を立てて、もう一度アンケートする中で追加質問はなしでいくのですか。 第2期の取組の中で、「もう一度アンケート取らないといけないな」とか、案が出てくると思うんですよ。やっていたことに対してアウトプット持ってそれでいいのかどうか、だからもう一度アンケートをすると思うんですけど、追加はないということですか。</p>
事務局	<p>国と府で追加されたものだけで、市独自のものは予定しておりません。</p>
副会長	<p>今の意見に関しては、これを聞いて施策があったものもあれば、例えば小学生のほうの間12-4に「放課後の過ごし方」とか、働かなければいけない理由とかというのものもあるんですけども。 端的にニーズ調査をするのであれば、「どれくらい行きたいですか」という希望がわかればよくて、「どうして働くんですか」とか、「どうして働かないんですか」ということを聞いて、それが施策に反映できればいいんだと思うんですけども。例えば「子どもに習い事させる」とか、「どうして働くか」とかということについて、それを踏まえてこの5年間、いろんなことをされたのかどうか、もし、それをしないのであれば、それを聞く必要があるのかと思いました。 さっきの負担感の問題からすると、それを見て「うちの市ではこういうのをやりましょう」とか、「こういうことにはお金とか人かつけましょう」というのがあるといいんですけど、それがなかった場合には、あえて聞き続ける意味があるのかを再検討するというのも一つだと思うんです。そのあたりについては、どんな感じでお考えになられていますか。</p>
事務局	<p>もともと国からのひな形で必須のものなんです。各市町村での施策というよりも、全国的に同じことを聞いて、国のほうで大枠で、国の施策としての資料にするためにということもあると思うので、「ここは最低限聞いてください」というところのひな型なので、市町村の判断で削</p>

	<p>るといことができるものできないものがあるんです。</p>
事務局	<p>最初に申し上げた、国・府のひな型というのがあるんですけども、こちらの方にも実際にはもっと多くの項目があるんですけども、中に削除可能の項目であったりとか、今申し上げた必須項目であったりとか、項目によってランクづけみたいなことになっていまして、原則、削除可能の部分は、全部入れると本当にものすごい量になってしまいますので、削除させていただいてます。</p> <p>今仰っていただいたとおり、必要かどうかという、今後どう使うかという部分なんですけども、谷向委員のご質問の中にも、少し似たような項目がございまして、一番最後の「お子さんが3人以上いる、もしくは多胎(双子や三つ子)のお子さんがある方に限定されている意図があるのですか」というご意見をいただいております。こちらにつきましても府のほうから新たに設定された項目ですので、市が独自の判断で入れた項目ではないので、本当のところの意図というのは我々もわからないところはあるんですけども、こちらの勝手な想像ですが、府が何かの施策に生かそうとしてるんじゃないかと思っております。</p> <p>こういったところは府に聞かないと、どうして入れたのかという本当の真意がわからないところではあります。</p>
副会長	<p>その趣旨説明は、特にないわけですか。</p>
事務局	<p>特にありませんでした。</p>
副会長	<p>使われ方として、国としてひな形を示しているということは、この結果を、データそのものが国に行くわけではないんですか。つまり、その報告書のレベルで国とか府が把握するのか、それともそのデータそのままの、エクセルのシートのまま、国なり府なりに持っていくのかというのは、どうなってらっしゃるんですか。</p>
事務局	<p>こちらの集計したデータを府に報告するような流れになっています。今、仰ったような府が設定した項目であったり、国が必須にしている項目であったりを最終的にどういう形で国に挙げるかというところは、わからないところではございますけども、一定、府下の市町村のものは集計されますので、そういった意味ではあまりオリジナル性を盛り込むと、多分、府の集計が困難になるのかなというところではあります。</p>
副会長	<p>ただ、調査をするというときには、ある種、「なので、こうなりました」とか、「こういうご意見があったから、このようなことを取り組んでおります」というのがあったほうが、それを含めて、市民の方々の理解は得やすいだろうと思います。つまり、「何度も聞いてるけど変わったのかどうかわからない」みたいな状況というのは、我々の業界の判断で</p>

	<p>いくと倫理的な問題にもなりかねないんですね。「貰うものは貰うけど、どうなったかわからない」というのはある種、やってはいけない種類の事柄に、徐々にそういうのが厳しくなっていますので、最初1回、2回であればいろんなことを聞いてみて、現状を把握するというのももちろん大事なことだと思うんです。でも、そのままあるから、ずっとやり続けるというのは、それが何に活きたのかわからない状態だと、負担も重いし、紙もかかるし、みたいなことになるので。ここでそれを言っても仕方がないというのはわかっているんですが、今はそういうことが厳しくなっているということをお伝えさせていただきます。</p>
西委員	<p>あくまでも、国・府から来たのを同じように柏原市からアンケートを取って、それを送るというだけのためのアンケートではなくて、柏原市としては、これを充実させて何かしていくという考えはおありですよね。</p>
事務局	<p>もちろん、市町村ごとの集計をして計画素案の中で、例えば、「保育所は増やしたほうがいいのか」とか「集約していったほうがいいのか」とかというような数字に反映されてきます。</p>
西委員	<p>いや、すごく内容的なもので、「学校に行ったときには、学童に入れたいですか」「習い事をさせたいですか」みたいな設問があるんですけども、放課後子ども教室に関しては、4年間コロナでほとんどできてなかったということを聞きました。1年生の子が今5年生になってそれを知るということは、家庭なんて全くそういうことも知らない、そういう方に「こういうものがありますよ」とか、良いことを全然知らないのに、こういう説明をしたところでどう答えられるのかなと思ったんですね。やはり周知して、市民の人とか、子どもを持つ親御さんに周知してもらって、選択というものがあると思うのですけども。始まっているといえども、やはりコロナ前以前のようなことはできてないと思うんです。それをさらに年齢も高齢化になっておりますし、後継者がいないという問題を各団体で聞いている中で、それを継続していけるのかな、この5年、さらに令和7年からそのさらに、こういうことに対する期待というのはどこまでできるのかなと思いました。</p> <p>設問の内容は市だけじゃなく、府とか国とか全国でこんなことをしているのかなというのも、この設問の内容をいろいろ読ませていただきながら、やはりコロナ前とこれからとは全然変わってくると思うので、一つの「こういうのがありますよ」ということで多分挙げていると思うんですけども。そこをもし、柏原市がこういうアンケートをとってこういうのがあったということであれば、いろいろ考えていただきながら、また次</p>

	<p>の参考にしていただけたらなどは思います。個人的なことは、家のことは書けると思うんですけど、こういう学校のこととかになってくると、何もわからない状態で選択をしていく中には、これが何かわからないから全然書かれなくてというのも寂しいかなと思います。やはりこれから継続していく中で、そういうことももっと力を入れていくことに対して、ご協力いただいて、続けられたらいいかなとは思いますが、いろいろな問題ありますので、それはそれで、よろしくお願いします。</p>
副会長	<p>今の意見については、市の方では、要するに今後の施策に結び付ける方向性として、どうお考えでしょうかという感じでしょうか。</p>
西委員	<p>そうなんです。アンケートの中の選ぶ一つの項目に入っているのならば、やはりそれなりに市としても協力というか、今まではすごく良いものだったんですが、本当に4年間で全く動けなくて、地域との結びつきがもっとすごく希薄になってしまったんですね。そういうことをやらないまま4年きて、さらに今やるとなれば、高齢化になってきて、後を継いでいただく方というのもやはり少なくなってきている中で、もういろんな声で、「もういいかな」という声も聞いたりもしているので、やっぱり寂しい思いもしています。</p> <p>放課後児童会のほうは、子どもを預けて親御さんが働くという場で、活用されていると思うんですけども、そういう家庭じゃないところで、地域の方と触れ合いながら、そういった平日の放課後であったりとか土曜日とかに実施していくうえで、やはり、なかなか周知してもらってないんです。低学年のときに周知できてなかったら、高学生なんでもっと周知できないという状況なので、本当に今、5年生の子に聞いたら「知らない」と言われるので、逆に中学生の子に話をすれば「あのとき楽しかったね」という答えが返ってくるんです。やっぱりそこは地域もそうですけども、学校、市、全ての事に関して、やっぱりみんなで共有し合って、良い方向に、また元に戻ればいいのかと思います。</p> <p>この項目の一つあったもので、それがどうなるのかなと思ったので述べさせていただきました。</p>
副会長	<p>わかりました。本当は逆に言ったら、そういうコロナの影響等についても確認できると、ダメージという言葉がいいかわかりませんが、それについて対策を考えるということもできるいいんですけど、この状況だと、中身的にはなかなか難しいところもあるのかなと思います。国もそういうことを聞いたらいいのと思いますけども、そういうのは出てこないわけですね。このアンケートには「コロナはどうでしたか」みたいな設問は一切ないですね。</p>

	<p>谷向井委員からご意見が出ているのですけれども、先ほど仰ったように、すぐに修正できないものがあるということなのですが、まず、事務局として、これについてはどういう回答になりますか。修正不可みたいなものも含めて、</p>
事務局	<p>原則、修正可能かと思っております。一つ目であれば、項目の中に切迫したような項目しかないというところで、確かに「そこまでは思っていないけども、ちょっと余裕が欲しいな」という方が、どこの選択肢を選ぶのか、すごく難しい内容になっていましたので、これは追加させていただいたほうがいいかなとこちらとしても思っております。</p> <p>それ以降のゲームを含むというところにつきましても、体裁を考えないといけないところではありますけども、ゲーム媒体でありますとか、パソコンやタブレット、スマホの視聴時間というのも、仰っていただいたとおり、発達への影響などというところも、何かしらのデータとして有意義なものが得られるのであれば、追加しておくというのはあるのかなと思っております。</p>
副会長	<p>そのレベルであれば変えてもいいわけですね。</p>
事務局	<p>項目を例えば、そもそもガラッと変えると、府の集計には反映がなかなか難しくなりますので、一定、集計の中身をそのまま府に回答できるのであれば、入れたデータとしてはこちらも使えるかなと思っておりますので。</p>
副会長	<p>そこは要確認であるということで理解してよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
事務局	<p>問21の谷向委員のご意見については、ニュアンスというか、表記を変えるということですかね。</p>
副会長	<p>そうですね。</p>
事務局	<p>「テレビ・DVD」と5年前のままになっているので、谷向委員が書いていただいているような、「ゲーム機とかスマホとかを見る時間」みたいな形に、表記を変えさせていただこうかなと思います。</p>
副会長	<p>例えばその次の、「仕事や自分のやりたいこと」というのは、谷向委員のご意見を反映させるとこれは、二つに設問を分けてほしいということで、「仕事に関する時間がない」というのと「自分のやりたいことに関する時間がない」という表記にするということなのかなと思うんですが、その辺はどうされますか。</p>
事務局	<p>こちらとしては、谷向委員の意図がすごくわかるので、選択肢としては、一緒にするよりは分けた方が回答者側も書きやすいかなとは思っています。</p>

副会長	その方向で変えられるということよろしいですか。
事務局	選択肢を増やすという形ですね。府への報告は、例えば14番に増やしたとして、合わせて報告するのか、そのあたりは調整かなと思います。谷向委員の仰るニュアンスがわかるような選択肢を増やすという形で対応できるかなと思っております。
副会長	<p>多分、委員の中で「それはやめておけ」というご意見は恐らくないと思いますので、谷向委員のご意見に沿って修正を検討するというところで、よろしく願いいたします。</p> <p>最後の3人以上というのはなぜかというのは、これは変えられないということなんですね。</p>
事務局	質問としては、付け加えられた設定の中に入っておりますので、設問としては入れさせていただこうかと思っております。ただ、「ほかの同じようなリスクがある方へ」というところも聞いていただいているんですけども、これを入れるところまではこちらの想定はしておりませんので。
西村委員	障害を持っているかどうかとかでは、聞かないんですね。今、大体、20人に1人くらいは障害をお持ちの子どもさんとかいると思うんですけど、だからガバッと送ったら障害持っている人のところに届きますよね。「私たちのことをどう書いたらいいだろう」とか、すごい違和感を感じると思うんですけどね。インクルーシブな社会を目指している割には、そういう配慮はないのかなと思いました。だって、障害を持っているかどうかで、書き方がだいぶ違うのではないかなと思うんですが、そのあたりはどうか。国のひな型にはないんですか。
事務局	項目の中には、障害を持っておられる方が選択するような項目とか、障害というワードが出てくるのは出てくるんですが、該当する方だけが答えるような設問という形にはなってないです。
西村委員	子どもさんがいるところに送るわけだから、「今何らかの障害を持っていますか」「はい・いいえ」と入れておいたら、「はい」の人と、「いいえ」の人で、多分すごく、後の選択に影響すると思うんですが、設問入れたら駄目なんですか。難しいですか。
事務局	だいぶ集計結果が、府が期待しているものと違う形になるのではないかなと思うんですが。
西村委員	私どものところにもいろんな障害の子が来るわけですけども、寝たきりの子とか何人もいます。やっぱりそういう人たちのニーズを拾い上げるというか、ちょっと違う話になるんだろうとは思いますが、全体の中で障害の子がどう思ってるのか、障害を持ってない子とはやっぱりニーズが違うとか、それを把握できたらなどは思いますけどね。思って

	<p>ることは多分、全然違いますよ。</p>
田中委員	<p>今、委員が仰ったように、支援の必要な子どもは増えているんだから、親としてはどこの施設に相談に行ったらいいのかよくわかってないと思うんですよ。市役所にそういう窓口はお持ちだと思いますけども、そのあたりをここに表してみるのも、私はいいような気がします。</p> <p>そういう子どもたちが、生後何ヶ月あるいは何年でタッチしていくのか、そうすることによって保護者の負担も相当変わってくると思うので、やはり早くに支援をしてあげていったほうがいいような気がします。</p> <p>話戻しますけども、子育て支援事業で、次、5年間されるわけですけども、明石市のようにすごく若者から振り向いてもらえるような事業がテレビでもマスコミでもやってくれてますけども、柏原市でそういうような支援する事業というものは生まれてくるのか、考えることはできないのか。そうすることによって、もっと若者の親に対して援助する方法があるんじゃないかなと思うんです。どの程度まで子育て支援というものはいけるのか、先ほど公園のことも話しましたが、他にいくつもあると思うんですよ。物的なもの、精神的なもの、もっと品物とかあるいは、昔の話で申し訳ないけども、柏原市が町から市に持っていくときに、柏原機械のところに住宅が3棟か4棟と建ちました。あれは、町から市へ持っていくための建物だったと私は思ってるんですけどね。だから、今、子育てのためにそういうようなマンションを建てて、市営か府営かわからないけども建てて、若者を応援するということは、それは子育て支援の中に入るのか入らないか。入れたら駄目なんですかね。それとも、そういうことを考えてもいいのか。</p> <p>ここにオムツの経済的支援ことも書いておられますけども、これはやる気があるのかなのか。やる気がないんだったら、書かないほうがいいのではないのでしょうか。市としてやる気があるんだったら載せていただいたらいいと思います。触るだけのことだったら、やらないほうがいいような気がします。以上です。</p>
副会長	<p>オムツの経済的支援というのは最後の三つ子のところですか。</p>
田中委員	<p>そうです。</p>
事務局	<p>まず、この計画は先ほども申し上げてますとおり、国とか大阪府が法律に基づいてこういう計画を立てて、「子育ての支援を進めていきなさい」というものがあるので、そのベースで必ず、やはりこういう計画を立ててやっていかなければいけないというもと言いますと、国とか大阪府が「こういう項目で聞いてください」「これは絶対入れてください」</p>

ということがございますので、なかなか独自の調査ができないんです。ですが、これはやらなければいけない。今ちように国のほうでは、こども計画という新しいものを出してきています。我々はこの支援事業計画の3期に行くわけですけども、いずれはこども計画というものに、全ての自治体になるかもしれませんが、結局そういうベースで国なり府が、これに基づいて、国の施策といいますか「実施していきなさい」「それぞれの状況を調査してください」ということがあります。

当然我々も、せつかくの調査をさせていただくので、これを活用して計画の中で必要数とかを検討して、市としてどういう施策をしないといけないかというベースにもなっております。ただ、今仰っていただいたように、市としてもっと独自色のあるサービスを提供しないのかということに関しましては、この計画をベースにもしながら、例えば数年前に「まち・ひと・しごと」という地方創生ございましたけども、そういうことでどういうことができるかとか。これからもコロナ明けて、そういった中でどういう施策ができるかというのは常に我々も考えながら、どうしてもやはりお金の制限もございますから、財政部門との協議をしながら毎年毎年、できることを考えていってるという状況もございます。

この調査をやってこの計画を立てて、「計画でできもしないのに、やってるんじゃないか」と今仰っていただいたこともあります。それだけではなくて、実際にいろんな施策というのもありますし、考えておるといことはご理解いただきたいなと思います。

それから先ほど、委員のほうから障害者の件もございました。仰るようにお子様で障害をお持ちの方は増えていると思います。そのあたりも、どうしてもやっぱり縦割りとは言わないですけど、例えば障害者、障害児という部分では同じように計画というのを作っております。それも結局、同じように国が、あるいは大阪府が、「こういう項目について計画を立てて、進めていきなさい」というところがございますので、それはそれでやってるんですが、ただ委員が仰ったように、本当にトータル的に見た調査ができるのが一番いいんでしょうけども、そこまではできていないという状況であります。そういった部分をやろうと思えば、国に基づいた計画とか施策だけじゃなくて、独自にやっていくべきなんだろうなということもあります。そのあたりはもちろん、本日の委員会の意見ということで、また今後、我々がいろいろとやっていく中で、ネットを使った調査とかアンケートじゃないですけど、そういうこともできれば活用しながら、そういうお声を聞く機会を持ったり、あるいは市のほうで市民意識調査とか、それとは別にアンケートとも時々やっています

	<p>が、そういったところでの吸い上げということはしています。もうこれは、決められたもとの立てなければいけない計画というところがございしますので、項目的にはあまり自由ではないんですけども、今いただいた意見というのは、また別で参考にやっていけないかなと思っております。</p>
副会長	<p>こういう言い方は失礼かもしれないのですが、ビルをいきなり建てるというのはなかなか、いろんな土地もお金もあると思いますけども、例えば、障害のあるお子さんの保護者の方にはどんなニーズがあるとか、働くということについても、どうしてもその障害があることによって、「いや、無理だ」というようなことも起きてるかもしれないですね。それにうまく答えていくということであれば、例えば保育に対する人の手配だとか、ある種の専門的なサポートというのを増やしていくということで、どれがどう難しくどれが簡単なのか、私にはわからないところもありますけれども、対応ができると思うんですね。可能性とかについて、そういう診断とかを受けておられるかどうかというのを一つ聞くことは可能なんじゃないかなと思います。それによって、その差を見ていけば、これだけ障害があるという診断を受けられている中で、働くにしても、お子さんを預けるにしても、将来のことを考えるにしても、困難があるのだというのが見えるというのは、一つの視点としては有効かなと思います。それだけかと言われても困りますけれども、一つの視点として一つ項目を増やせば、そこでその差を見ていくことができると思いますので、ご検討いただく価値はあるかなと私も思いましたけど、いかがですか。聞き方は難しいと思いますけど。</p>
事務局	<p>例えば、一番最初に性別とか生年月日を聞くような感じで、「お子様に障害がございますか」ということを入れて、それで仰ってるように他の項目とクロスをかけることで、そういった子どもさんがこれに対して、どう答えているかということだと思んですけど、そうしたら障害をお持ちなのかということ、入れていいのかというところがやっぱり一番のところだと思うので、そこは我々も独自に入れるというのは非常に難しいと思います。</p>
副会長	<p>もちろんその、お子さんが3人以上おられるのもそれは負担だと思うんですけど、そういうことを言えば他にもそういうものがあって、押しつけるわけではないですけども、そういう障害のあるお子さんに目配りというか、支援をしていくのも行政としては重要なテーマだと思います。なので、聞き方について配慮が要る部分はあるかもしれませんが、ご検討いただけたらどうかなと思います。</p>

西村委員	<p>障害を持っている人で、お母さんがどのくらい働けてるかとか、わかりますか。例えば、知的障害肢体不自由とか、そういう書き方でいいと思うんですけど、今ってご両親とも働く傾向が高いじゃないですか。お父さんは大体働いてますけども、結構、重度の障害をお持ちであるお子さんのお母さんがどのくらい働いているのかとか。例えばそれが、ほとんど働けてないということだったら、まずいわけですよ。もちろん、障害をお持ちのお子さんが生まれることはありますよ。でもご両親の責任ではないわけだから。だからそれでも、仕事をしたり、人生を楽しんだりすることをできるようにするのは、行政の仕事かなと僕は思うんですけどね。だからそれを把握しておくだけでも、柏原市独自のこともなりますしね、「柏原市がそこまで配慮しているんだ」ということにもなると思います。</p> <p>皆さん苦勞してますし、これは個人の話ですけど、重度の障害の子をずっと診ているんですが、お母さんは働きたいんですね、キャリアのあるお母さんで。でも、ずっと見てないといけないじゃないですか。お母さんはとてもじゃないけど働けないんですね。一応うちが日中はずっと預かってるんです。そうしたらお母さんは働けるようになって、とても喜んでおられました。ただ、お母さんが言うには「私は特別なケースだった。障害児の集まりってほとんどの人は働けてない」というのは、やっぱりもうすぐく訴えておられました。そういう声をやっぱり拾い上げてほしいというのと、このアンケートがそのお母さんのところに送られてきたら、悲しい思いをされるんじゃないかなと正直思ったんです。何の配慮もないなど。普通のこと聞いているんですけど、障害をお持ちの人は配慮がないだけですから傷つくんですよ。要するに無作為に行なうわけですので、十分な配慮は必要かなと思いました。</p>
藤井委員	<p>国とか府のひな形を用いてと書いてるけど、結局これは柏原市の子ども未来プランなんですよ。柏原市のプランを立てるのに、そういう障害者という独自のことはしなくていいということなんですかね。それとも、していいんですかね。「基本、これで答えなさい」というのはわかるんですけど、もうそれだけをやるのであれば、僕たちはいらないじゃないですか。柏原市としての独自性を出すためにということだったら、多分、いろいろ書き加えてもいいような気がするんですけどね。ここに子どもたちと書いてあるんですよ。障害者も同じ子どもたちですからね。「柏原市独自にこういうことを聞いてますよ」というのもあってもいいんじゃないかなと思います。</p> <p>小学生の調査票10ページに、預けてない理由について聞いてるん</p>

	<p>ですね。やっぱり親じゃなくて、親も関係してくることなんでしょうけど、子どもについても気にかけていただいたほうが、柏原市も特色を出すという意味でも、せっかく今日こうやってお集まりいただいていますし。公園の話にしても、アンケートだけ、国の言うことを聞いてたらいというようにことであれば、独自性がないですからね。</p> <p>今、こども誰でも通園でしたかね。そういう部分も、国のほうでいろいろ行われたりとかしてるので、それとリンクしてくるようなことも、内容に入れてもいいのかなと思いますし。柏原市の計画なのに、府や国の言うことばかり…</p>
西村委員	でも、邪魔にならないようにはしないと駄目ですよ。
藤井委員	それはもちろんそうです。
西村委員	多分、府が何かしたいんでしょう。3人以上だったら補助したいから、データが欲しいんですよ。それはきちんと協力してるわけだから。
藤井委員	それはいいと思いますよ。でもちょっと、柏原市の独自性というのはどうなのかなと思いますよね。それは予算もあるでしょうけれども。
副会長	結果は報告されていますよね。報告というか、ウェブページに出ますよね。前回ですけども、他の市の結果とかは確認とかされているんですかね。八尾市とか、柏原市とか、藤井寺市とか、つまり近隣の市町の結果というのは、確認されているんですか。
事務局	5年前のアンケートの調査結果ですか。
副会長	<p>そうです。今からそれを見に行ってしまうということではなくて、つまりそういう意味で独自ということを考えてときに、柏原市はどのような評価を受けているのかとか。他の市に比べて、もし国なり府が、同じような項目で作っているのであればとか、そういうこと聞いているのであれば、行政が出しているものを比較して、柏原市はどうであるのかということを見ていくというのは、一つ方向性としてありますし、それは調査を増やさなくていいし、お金もかからず、ちょっと職員の方の仕事が増えるということですけども。</p> <p>前回の計画を立てるときにも、さっきの人口の話がありましたけれども、近隣との市町との比較で考えたときに柏原市はどのような位置なのか、人口が増えているか増えていないのか、それについてどういう手立てをされているのかというのは議論した覚えがあるんです。「なんで柏原市って人口増えないんですか」とお伺いした経緯があるんですけども、それがこの計画を比較することで、その理由なり対策が打てるかどうかは私もわからないんですけども。もし今のように市としての位置づけとか、評価ということを考えてときにはそういうようにしながら、表</p>

	<p>立って「うちの市はこうですよ」とは言えないんですけども、分析していくある種の競合だと思しますので、分析していくというのも一つの考え方としてはあると思います。なので、そういうことも先ほどの新しい項目を入れるかということと併せて、そういう作業というのもしていただくと、いわゆるその評判というだけではなくて、客観的に柏原市の位置づけというか、評価というのもわかるかと思しますので、今回、もしそういう機会があれば、ぜひそういうものも見ていただけたらと思います。</p>
楠委員	<p>就学前児童がいる世帯対象の19ページのところは、柏原市の内容が入ってるんですよ。ここは独自性を入れているということになってるんですかね。今まで国と府ときてて、機関とサービスのところで、柏原市の家庭児童相談室を知ってる・知らないとかという質問があったので、全てがそうではないのかなと思ったりしてるんですけど、だから、一番最後に追加していったら駄目なんですか。このアンケートと府と国と整合性を取っていくんですかね。「私たちはこれを出すので、これでいいですか」と確認を取ったりするんですか。</p>
事務局	<p>そこまではしないです。</p>
楠委員	<p>しないのであれば、独自性のものは最後に追加していったらいいのかなと思いますけど。</p>
事務局	<p>機関名については、ひな型はもっとぎっくりとしたものなんです。こんなに多くないんですけど、答えやすいように、ここは市独自で細かく、実際にある施設を記載して、府とかに報告するときはもう少し絞った形で報告するという形です。</p> <p>新しく追加していくというところですけど、極力増やしたくないというのが、回答していただく方とか回答率の関係でありまして、特にその小学校よりも就学前の設問が多いので、追加すると50問とかになってきます。なので、そのあたりもあって、削除可能なものは削除してこの質問数となっています。</p>
楠委員	<p>それは表紙に、「1問から何問までは国と府の設問です。そこからは柏原独自の設問なので、見てほしいです」と太文字であれば、より特化して見えるのかなと思います。</p> <p>あとちょっと気になっていたのが、報告するときって、この各回答を調整できるって言ってたんですけど、そのままいくわけじゃないということなんですか。似たようなものを混ぜて報告するという形なんですか。この下りてきたひな形に対して、どういように回答するんだろうかと、そのスキームが気になったので。</p>

事務局	<p>まだ回答の形式というのが手元にないので、事前にスケジュールとしては、一旦、「いつ頃、集計・報告くださいよ」というのが、府の調整の結果、後ろになったんですけども。その集計のやり方であったり、どういう形でどういうスキームにて報告するかというところは、府から具体的なものがないので、正直それによってどういう圧縮のやり方をするか変わってくるのかなと思いますけども。仰っているとおり、もうちょっとアレンジのやり方も上げる、上げないというところの判断もできるんですけど。</p>
楠委員	<p>ちょっと思ったのが、答えた回答に対して漏れないのかなと思いつつながら、そこも気になったので、まだ出てないということなら、わかりました。</p>
事務局	<p>恐らくExcelで、設問で何番を選んだかというのをカウントしていくような表で報告するという形なのかなと思います。</p>
西村委員	<p>府から Excel を送ってきて「ここに入れてください」とかそんな感じなんですね。</p>
事務局	<p>多いのはそういう形です。</p>
西村委員	<p>それなら、確かにズレていたらやりにくいというのはわかりますけど、でも、独自のものはやっぱり聞きたいのはありますよね。ちょっとぐらい聞いてもらってもいいんじゃないかと思いつつですけどね。</p> <p>もう一つ言ってもいいですか。「あなたはどうして、柏原市で子育てすることを選ばれたんですか」というのはちょっと聞きたいです。元々住んでいたからというのは多いんでしょうけど、わざわざ越してきた人もいると思うんですね。「これがあるから柏原市を選んだ」という声があったら、みんなモチベーションも高まるしね。多分あると思うんですよ。緑があるとか、いろんな子育て支援が充実してるとか。そういうのがあるんだったら、やる気出ませんか。もちろんそういうことがあったら、その良い部分をどんどん伸ばしていきたいくなるし、自由記載よりは選択肢のほうがいいと思いますけど。</p> <p>柏原市ってすごく良いところあるじゃないですか。広い公園あるし、山はあるし、景色は良いし、大和川流れてるから涼しいし。そういうことで、良い点を答えてもらって、みんなで柏原市をよいしょする、そういう設問があってもいいかなと思いました。</p>
藤井委員	<p>「将来をどうしたいか」ですからね。そのための計画だから、独自の聞きたいことをここで聞いても、罰は当たらないと思いますけど。</p>
副会長	<p>ということですので、まだご意見いただけたらと思いますけど、今後の取り運びというか、いつまでにどのように、この調査を仕上げていくのかということをもうちょっと具体的にご説明いただいてもよろしいです</p>

	か。
事務局	この後、調査項目を固める作業をしていくんですけども、リミットになるのが、年内に印刷であったりとか、封入作業をして、年明け直ぐに発送いたします。そこから逆算して、実際にどこまでかというところにはなってくるんですが、
副会長	そうすると、年内に印刷するというのであれば、少しは今後の検討を、今のご意見に基づいてされる余裕があるということですかね。
事務局	はい。
副会長	今、いろいろ出たご意見があると思うんですけども、これは「承りました」で終わりますか。それとも、さっき出た障害のこととか、インターネット調査のことについては、どこかでご回答があると思っていたらよろしいですか。
事務局	メールで回答させていただくような形にいたします。
副会長	委員の皆様にとということですか。
事務局	はい。
副会長	ということです。逆に言うと、入れていただけるかどうかはわかりませんが、もし気づいたこと等があれば、お伝えしてもそれは構わないということでしょうか。
事務局	基本的に委員が仰ったように、追加するのであれば後ろに入れていくような形にさせていただこうと思っております。
副会長	今、会長が到着されましたので、どうでしょうか。 一応送っていただいたのも検討して、ちょっと最後のこれだけは府から下りてきた項目だから、これは変えられないということで、あとは変更する方向でご検討いただくことになっています。 いかがいたしましょうか。このアンケートについては、今のような取組で、その後されるということでしたけれども、委員のほうからこの場で追加とかございますか。よろしいですか。 では、一旦、アンケートの項目については検討したということで、出た意見については今後どうされることにしたか、メール等でご返信をいただけるということです。 ここからの議事進行は会長に交代したほうがよろしいですか。
会長	そのままお願いします。
事務局	こういう独自色で何か、追加したほうが良いと仰っていた設問なんですけど、先ほど委員が「あなたはどのようにして柏原市で子育てすることを、選ばれたんですか」と具体的なことを仰っていただいたと思うんですが、それ以外はある程度、こちらにお任せいただけるというよろしいで

	<p>すか。</p>
田中委員	<p>委員が仰るのも一緒なんですけども、いくつもはできないと思うんですけども、何か柏原市としても、これだけやりたいなというのがあまり見えてこないの、もう少し大阪府が、あるいは国がこういうような方向で動かしていると言うんだったら、そういうような言葉には出せないのか知らんけども、何か欲しいんですよ。</p> <p>欲しいというのは、私は公園にこだわるけども、やっぱり親子が遊べる場所というのは公園かなど。あるいは、大和川の芝生にしてもそうですけども、それがないと親と子の対話がなかなか生まれてこないから、そんなことで、ここの後ろに書いておられる3人以上の家庭についても大事なことだと思うし、両親の子どもとの休みの日の対話とかそのあたりがなかなか保てないおうちが多いので、それをまたもう少し、何か柏原市としてガイドブックの中にもそういうことを入れていただいたらいいんじゃないかなと僕は思いますね。以上です。</p>
副会長	<p>「どれぐらい接していますか」みたいなものはあったと思いますね。十分と思うかどうかとかありますけど、それだけではありますね。就学前だと問19に「一緒に過ごす時間がどれくらいあるか」という設問があります。</p> <p>自分の研究ではこのあたりのことをしていますので、今仰ったように、コミュニケーションが取れているかどうかというのは、確かに気にはなるところけれども、どうでしょうね。</p> <p>すいません。でも、具体的に私が言い出すとすごい量になるので、ここでは差し控えますが、ただ、お勤めの場所によっては、コミュニケーションが取りにくいという方というのは当然おられますので、そこをどのようにしていくのかというのは、一つ課題ではあると思いますけど、</p>
楠委員	<p>すいません。具体的な質問というところで、前の2期ときに、アンケートをとったときに、恐らくそのときの冊子に要望か困ってたこととかで「子どもが遊べる場所がない」と書いていたような気がして、それに対して「柏原市はこういうことをしようとしています」と。それが本当にやったときに来てくれるのか、活用してくれるのかという不安があると思うので、「これをしようと思うんだけどあなたを活用しますか。しませんか。」というのを入れたらいいのかなと思っています。なので、その前回のアンケートで要望があったことに対して、やること、あるいはやろうとしていることを入れたらいいのかなと思います。</p> <p>自分のところの組合とかでも、基本的に上の組織からこういう型が落ちてきて、自分のところの組織に合ったような質問を後ろに入れてい</p>

	<p>るんですけど、それで60問とかになったりするんですけど、結局それ春闘とかで、自分たちが会社に交渉するときに、こうしたいけどそれが通ったときに活用しなかったら意味がないので、「これはやりますか。やりませんか」というのをアンケートで入れたんです。なので、まずベースは前のときの要望、そのときは古いので、情報が前なので。その整合性取るためにもそれを入れたらいいのかなとは思いますが。</p>
副会長	<p>具体的にはどういうことでしょうか。公園作るとか、そんな話ですか。</p>
楠委員	<p>例えば、遊ぶところがないんだったら、公園なのか複合施設なのかというところがあれば利用するだろうし、病院が少ないんだったら病院を増やすとか、もうシンプルな答えだということなんですけど。</p>
副会長	<p>そういういくつか必要と思われる施設なりを挙げて、利用意向を尋ねるというアイデアということですね。</p>
楠委員	<p>そうです。それで需要があるのであれば、計画を立てて、そのリソースとかもあって、時間的にかかるとは思いますけども、それで中長期で入れてもいいのかなと、投資とかで。需要がないのであればやっても意味ないと思うので。</p>
副会長	<p>これも一つ項目を増やせば、多分できるかなと思いますので、ご検討いただいてよろしいでしょうか。他はいかがでしょうか。</p> <p>では、一旦、この案件から次の案件に移ろうと思います。</p> <p>議事進行も私のほうで進めさせていただいても、制度上、問題ではないですか。</p>
会長	<p>はい。お願いします。</p>
副会長	<p>では、案件2「その他」に参ります。事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>案件2「その他」ですが、「利用定員の変更について」でございます。</p> <p>本日、お配りさせていただいた資料をご覧ください。こちら子ども・子育て支援法第31条に「利用定員を定めるときには、子ども・子育て会議の意見を聴かなければならない」ということになっておりますので、本日は案として、お示ししましてご意見を伺うものです。</p> <p>本日配布しました資料ですが、民間保育園の南河学園附属国分保育園から、利用定員の変更の申し出がありました。現在134名の定員を120名に変更するものでございます。資料の下段に、平成28年度から8年間の南河学園の歳児別の入所状況を掲載しております。平成29年をピークに減少傾向にございまして、令和5年度は、4月当初105名となっております。現在の利用定員が134名の約80%を切るような状況になっております。就学前の児童数も減少しております。南</p>

	<p>河学園の近隣で大規模な開発があるとか、そのような予定もございませんので、入所希望が急激に増えるというような見込みはないということで、利用定員の変更の申し出をしようと考えております。市全体で見ますと、1、2歳児については、ここ数年ニーズが高い状況が続いておりますので、ニーズが減少傾向にある0歳児を主に減らす形で、大阪府に届け出る予定でございます。利用定員は減りますが、元々こちらの施設は定員150名の大きな施設ですので、ニーズが増えた場合も、対応可能であると考えております。事務局の説明は以上です。</p>
副会長	<p>今拝見して思ったのですが、0歳が3になるということについて、これは4月時点ですので、令和5年度も、今はもっとおられるということですか。</p>
事務局	<p>今、4名です。</p>
福会長	<p>そうすると今後は、4は入れられなくなるわけですね。</p>
事務局	<p>これは保育士さんが、0歳児は1:3なので、年度当初、枠としてはお持ちなんですけど、1名なので、1名しか入ってないということで、保育士さんは2名おられるので、6名までは取れます。</p> <p>例えば保育士さんが3名、4名おられたら、部屋的には12名ぐらいまで取れるような、規模の施設ですので、</p>
副会長	<p>ですけど、「利用定員3のところ12人来ました」というのは認められるんですか。120の全体が整っていればいいのかということですか。</p>
事務局	<p>5年連続で120%を超えるとペナルティみたいな話になるんですけど、部屋面積と保育士の配置さえクリアしていれば、対応可能です。</p>
副会長	<p>そのあたりの経営的なことは私はわからないんですけど、9だったところを3にして、「保育士さん増やせばいけますよ」というのはわかるんですけど、途中から採用して来ていただくとかになるのか、元々数が少なかったらそうなるということかもしれませんけれども、長期的に見たときに、安定した形でお子さんを受け入れて、その園の中でずっと大きくなっていくというのができる体制なのかというのは、3という数字については気になってしまうんですけども、それは大丈夫なのですか。</p>
事務局	<p>大丈夫です。元々3人に合わせて、職員数を減らすとかじゃなくて、一定、今の職員さんは確保した上で、利用定員だけを下げるとい形です。年度途中で増えてきた場合は、今在籍されている職員、保育士さんの中で見れる範囲で見れますので。</p> <p>今この11月時点でも全体で110名、それから4月からは5名しか増えてないということもありますので、部屋の面積的にも人員的にも、一旦は120に下げますけど、例えば120を超えてきても、受けは可能</p>

	かなと思っております。
副会長	<p>ちょっとそこにご配慮をいただいたほうが、この差というのがものすごく大きいので、必要かなと私は思いました。</p> <p>委員の皆様、いかがでしょうか。</p>
藤井委員	定員数によって委託料が変わってくるんですよ。
副会長	多分そういうのがあるんだろうとは思いますが。
藤井委員	<p>そこで多分、地域的にも子どもが減っているということなので、このままでいくと、適正な運営がしんどいんだと思います。でも、保育士さえいれば、教室の面積があるということですから、「運営は大丈夫です」ということなので、その都度 20%まで認められていますので、そういうことだと思っんですけど。</p>
副会長	<p>わかりました。連続性といいますか、保たれるようでしたら、私は良いかなとは思っています。ありがとうございました。</p> <p>では、これについては意見を聴取するということですね。引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>その他何かございますでしょうか。よろしいですか。これまでのことについて何か追加があればお願いいたします。</p>
西村委員	<p>ちょっとフランクに話してしまいましたが、ちょっとまだ固いんですよね。「せっかくこうやって集まってるんだから、ちょっとぐらい意見聞いてよ」というのがもう、皆の思いだと思いますよ。ちょっとぐらい聞いてもらってもいいんじゃないですか。我々も知りたいし、変なこと言ってるわけではないので。よろしく願いいたします。</p>
副会長	<p>ということですので、でも、それはそういうことだと思いますので、逆に言うと、職員の皆さんにこういうこと言うのはあれなんですけど、そんなに、国と違って大したこと考えてないんじゃないかなと僕は思っんですけどね。</p> <p>やっぱり現場と上とのズレというのは、大学もある種の役所みたいなもんですけどね。非常に大きいわけですよ。上は「こうやってやれ」と言ってくるんですけど、「そんなんでできるか」みたいな話が実は大学にもたくさんありまして、そういう意味では現場というか、こちらからその意見を挙げて、「何もわかってないじゃないか」と言っていくのも大事なかなと思いました。</p> <p>今日のご意見がついては、ぜひご検討いただいて進めていただけたらと思います。</p>
会長	<p>本日は遅れまして、申し訳ございませんでした。</p> <p>コロナが明けまして、子どものほうもいろいろな歪みが出てきてるよ</p>

	<p>うに思います。不登校ですとか、青少年の自殺ですとか、そういう意味では、先ほど副会長はキリがないと仰いましたけれども、副会長のご研究の一端をここにに入れていただいてもいいんじゃないかなと思ったりします。それが生きてくれば全然問題ないと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは、これで本日の会議は終了させていただきますたいと思ひます。皆様、ありがとうございました。</p>
副会長	<p>次回、大体いつ頃かということをお伺ひしたいんですが、まだわからないですかね。</p>
	<p>年度末に、この調査の集計をまとめたものを作成するようにしていますので、次年度になってからこの調査の結果というのを皆さんにご報告できるかなとは思ひておひます。それから次年度が実際計画を策定していく作業になっていきますので、一応今のところ、年間4回ぐらひの開催を予定しているところではす。</p> <p>また、会議の開催の案内は都度させていただきますが、皆様よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。</p>